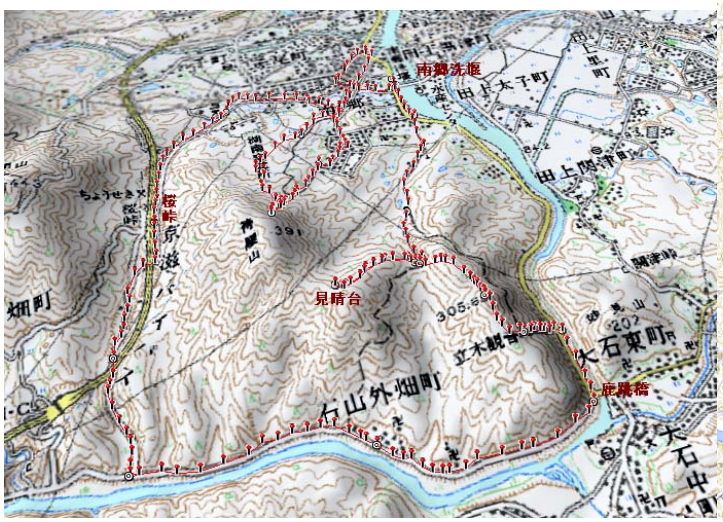
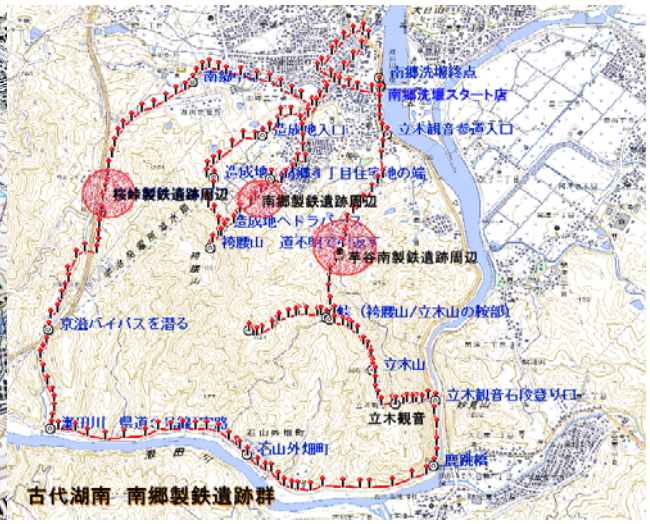
9. 湖南　南郷の古代の製鉄遺跡を訪ねて　袴腰山を巡る

2009.7.30.　　by　Mutsu　Nakanishi

洗堰から見る南郷の象徴　袴腰山

袴腰山・見晴台から見る南郷洗堰　瀬田川の流れ





南郷の古代の製鉄遺跡を訪ねて袴腰山を巡る walk　　湖南南郷洗堰周辺地図と古代南郷製鉄遺跡群の位置

7 月の初め　湖南アルプスや湖南の製鉄地帯を巡って南郷洗堰間で歩きましたが、洗堰から音羽山山塊と湖南アルプスの狭い間を流れ下る瀬田川の流れ全体が見られなかったことと、瀬田川の西岸に広がる南郷のランドマーク袴腰山の周りにある古代の湖南の製鉄地帯　南郷製鉄遺跡群の周辺を歩けずで、いささか消化不良。

また、琵琶湖から流れ出た瀬田川が洗堰を経て、音羽山山塊と湖南アルプスの山塊の狭い間を巾 10m ほどに狭め、立木山の麓大津市　鹿跳橋周辺で　山の壁にぶつかって 90 度方向を変えて宇治川の峡谷を流れ下る。 この場所も是非眺めたいと。

瀬田川の西岸　南郷にどっしりと座る袴腰山は標高 391m ほどの低い山。

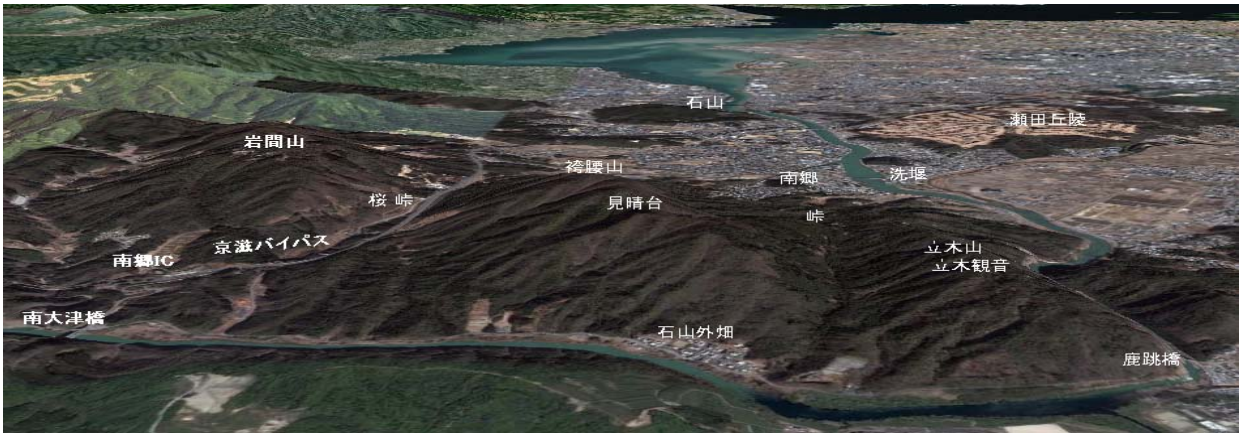
インターネットを見ると山へ登る道もありそうなので、頂上部から琵琶湖から南郷を流れ下る瀬田川を眺め、そして　今はもうその痕跡も見つけられないでしょうが、山の周辺にある南郷遺跡群を巡ることで　7 月 30 日　真夏の暑い 1 日　前回と同様　石山駅からバスで瀬田川沿いに南郷洗堰に出てそこから南郷 Walkk 再チャレンジ。

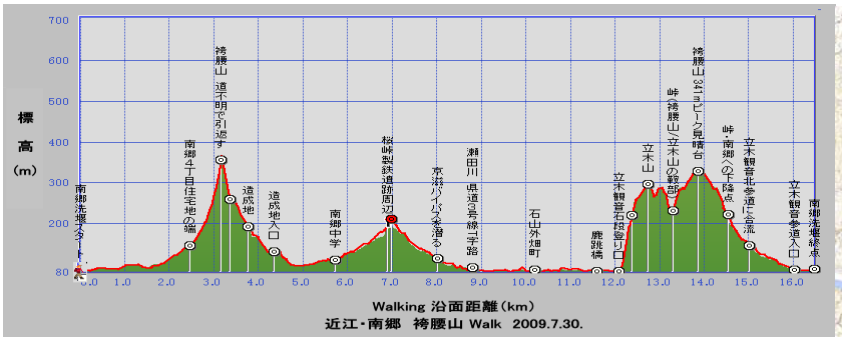
「袴腰山は市街地に隣接した里山。しっかりした道があるはず。」と思っていましたが、ハイキングコースになっている縦走路はしっかりした道でしたが、一歩谷筋へ外れると見向きもされないのか　ここでも　廃道になりつつあるのか　荒れはてていてビックリでした。　最近は土地の人たちがやまに入らないので、里山も危ないとの話が現実と思いました。

じっくりと　製鉄遺跡を巡って　袴腰山を一周して袴腰山から琵琶湖から流れ下る瀬田川を眺め、瀬田川が山にぶつかって 90 度方向を変える急流の瀬田川もしっかり見てきました。

瀬田川が 90 度方向を変える立木山の麓　石山外畑

外畑/南郷を結ぶ芋谷のかつての峠道





南郷公園より 袴腰山

梅雨の豪雨を受けて 水門全開の洗堰 2009.7.30.

【 近江 南郷 袴腰山山麓に点在する古代の製鉄遺跡群 南郷製鉄遺跡群 】 滋賀県埋蔵文化財センター資料より

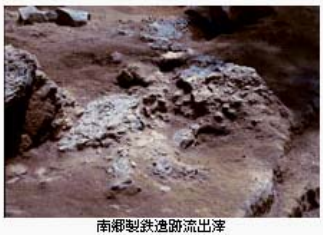
近江 湖南 南郷の 古代の製鉄関連遺跡群　滋賀県埋蔵文化財センター 遺跡マップほかより整理

.	製鉄遺跡群	遺跡名称	遺跡所在地	市区町村名	遺跡種類・遺構	遺跡時代	備考
n1	南郷製鉄遺跡群	南郷遺跡	南郷3丁目・石山南郷町	大津市	製鉄跡	.	鉄滓
n2	南郷製鉄遺跡群	平津池ノ下遺跡	平津1丁目・千町1丁目	大津市	祭祀跡・製鉄跡・墓跡	弥生・古墳・奈良	鉄滓・石鏃
n3	南郷製鉄遺跡群	山口遺跡	南郷5・6丁目	大津市	釜跡	奈良・平安	須恵器・鉄滓
n4	南郷製鉄遺跡群	南郷桜峠	南郷1丁目	大津市	製鉄跡	奈良	.
n5	南郷製鉄遺跡群	芋谷南	石山南郷町・南郷4	大津市	製鉄跡	奈良	.

古代の製鉄は、粘土で造った炉の中で大量の木炭を燃やし続け、ここに鉄の原料を少しづつ入れて溶かし、鉄を分離させて造ります。

芋谷南遺跡の発掘調査成果をもとに、製鉄炉の構造を紹介します。

まず、炉の地下構造として地面を凹型に掘りくぼめ、底と側面に石を敷き詰め、さらにこの中に炭と砂を充填します。炉の下を乾燥させるためです。この上に幅約0.9m、長さ約2.8mの箱形の炉を粘土で造り上げ、炉の短辺の下には融けた不純物(鉄滓)(てっさい)を流し出す穴が開けられています(発掘されたのは炉の底の部分だけです)。炉の周辺には大量の鉄滓が堆積していますが、この中に鉄鉱石が混じっていたことから、芋谷南遺跡の製鉄は、鉄鉱石を原料としていたことが判りました。



南郷製鉄遺跡流出滓

南郷製鉄遺跡の炉の一部と見られる石列

瀬田川右岸の製鉄遺跡

1. 南郷洗堰から南郷の街を抜けて袴腰山へ　　南郷４丁目　南郷遺跡周辺から袴腰山へ

7 月 30 日　まだ　梅雨がまだ明けきらぬが、今日は晴天　南郷洗堰の川岸でバスを降りる。

今回は　瀬田川西岸の南郷をじっくり歩いて　袴腰山に登って　山の上から南郷・そして瀬田川の流れを眺めるのが目的。

標高 391m と低い山ですが、瀬田川の西岸　南郷の真ん中に袴腰山がどっしりと座り、瀬田川との間の狭い丘領地に山を取り囲んで南郷の街がある。 最近はベツドタウンとして　袴腰山の北側に広がる丘陵地が開発され、土地の人が言うには「滋賀のチベットから、憧れのベットタウン」へと変貌を遂げたという。

袴腰山への道は 5 万分の 1 の地図には記載されていないが、インターネットには袴腰山ハイキングの記録が数多くあり、南の立木山　立木観音から北へ袴腰山への縦走路が整備されているらしい。 でも縦走路も含め　視界が開けぬ踏み跡をたどる雑木林の　どこでも歩ける迷いやすい道のようだ。 そして、縦走路の途中 1 箇所に展望が利く見晴らし台があるようだ。

どこでも歩けそうなので、インターネットで得たマップ図をコピーしてその中に南郷製鉄遺跡の位置を書き入れて出てきました。

南郷　袴腰山　ルート図　　インターネットより

梅雨末期　連日どこかで、集中豪雨の警報が出ていた頃で、 洗堰も全開で、先日訪れた時の静かな流れとは違って　波打った流れが洗堰を通り抜けてゆく。前回は夕方だったのと瀬田川の東側　湖南アルプスに気を撮られて、よく見なかった洗堰西岸の南郷側をもう一度良く見ようと洗堰をわたる。

洗堰から見る左から立木山から袴腰山　そして右手後ろに岩間山　　2009.7.30.

洗堰を渡って　振り返ると南郷の瀬田川の岸からは近すぎてよく見えなかった台形状の袴腰山がどっしりと腰をすえているのが見える。

左端が山頂部に立木観音がある立木山。 洗堰を流れ下る瀬田川はこの立木山の山裾で　狭い峡谷となって山裾を撒きながら方向を90度西に採り、宇治川となって狭い峡谷を天ケ瀬ダムへと下ってゆく。 また、岩間山には山頂に西国三十三所第 12 番札所岩間寺があり、「汗かき観音」「雷除け観音」ともよばれ、厚い信仰を集める古い観音霊場である。

この湖南は琵琶湖を通って朝鮮半島・大陸とつながる大和の北の入口であり、数多くの大陸・朝鮮半島の新しい文化・渡来人が往来した。 そして、この立

木山から袴腰山から北へ岩間山・音羽山から比叡・比良山へと続く琵琶湖西岸の山塊も対岸の湖南アルプスと同様　花崗岩地帯が続き、古代の鉱物資源帯で鉄鉱石を産し、この鉄鉱石を原料に袴腰山周辺では大陸の先進技術を取り入れ、いち早く古代製鉄が営まれた古代製鉄の先進地。　この山並みが日本の製鉄を育んだ。

洗堰を流れ下る瀬田川は梅雨末期の集中豪雨をあつめて、水量を増し水門全開でごうごうと音を立てながら流れくだり、前回の静かな流れがウソのようである。

梅雨末期の集中豪雨をあつめて、水量を増し水門全開でごうごうと音を立てながら洗堰を流れ下る瀬田川　2009.7.30.

袴腰山へ登るには南の立木観音の所まで下ってそこから登るのが通常のようですが、そちらからだと南郷の製鉄遺跡群がある袴腰山の北山麓とは逆になるので、地図を見ながら、北側の南郷3丁目の住宅地から道を探しながら登ることにして出発する。

南郷公園からの袴腰山

南郷小学校と宇治川発電所の導水路

洗堰から少し北に出て　南郷小学校横宇治川発電所の導水路のところからバス道を西へ　新しい住宅地を登ってゆけば南郷3丁目。この住宅地の上部と袴腰山の間周辺が南郷製鉄遺跡の周辺。　西へ道をたどりながら変電所の横から袴腰山へ登る道があるはずと地図を眺めていたら、南郷3丁目の住宅地をぬけたところから、まっすぐ袴腰山に登る道があるという。地図を見ると縦走路からはだいぶ東によっているが、親切にも登り口の住宅地の端まで車で送ってあげるといわれ便乗。　小学校の横で何人かに袴腰山の登り口を尋ねたのですが、みんな　こちらからは知らぬといわれ、多少不安でも合ったので便乗したのですが、直登ルートで快適だった道も余り人が入っていない精もあって登るにつれ、道が怪しくなって　ついに視界の利かぬ雑木林の中で道がなくなりました。

地元の人に教えてもらった道を頂上へ

もうほとんど頂上に近いのですが、なんせ台形状の山　視界の聞かぬ中でヤブコギを繰り返すのもいやなので引き返して、南郷の製鉄遺跡群を巡って洗堰からは反対側　山の西側を巡って桜峠から山の南側の瀬田川に出て、立木観音から登りなおすことにする。
しっかりと南郷製鉄遺跡群のあった場所を見たくて　北側からのルートを探したのですが、やっぱりイランことをしたらだめでした。
約30分ちょっとのロスですが、引き返す途中住宅地の少し上の所で西へ出る枝道をトラバースするとパッと視界が開け、眼下に袴腰山の北側の南郷の街を一望できる広い造成中の高台にでられました。

袴腰山頂上周辺で　道を失う

地図を広げて　南郷製鉄遺跡の位置を確認。 また、瀬田川の流れや洗堰を探すのですが、高さが低いため、瀬田川の流れや遠望する琵琶湖の湖面をみることは出来ませんでした。
南郷製鉄遺跡群の資料では地名が数箇所かかれており、地図に示された位置と必ずしも一致しませんが、眼前に広がる造成地や左手の南郷3丁目　右手の4丁目など眼前一帯の住宅地の中から古代の製鉄跡や鉄滓が出土したようだ。
また、左手住宅地の端にある南郷変電所から南へ山の間を入れば桜峠遺跡であるが、ここからは見えない。

袴腰山の北側の山腹造成地の高台から眺める南郷の住宅地　　左端が南郷変電所　右手湖南アルプス　　2009.7.30.
正面奥にうっすら琵琶湖とその山並みがみえその手前　緑のバンド下を瀬田川が流れる南郷の住宅地が広がっている

南郷3・4 丁目奥の造成地　　右端の住宅地と接するあたりが南郷製鉄遺跡跡か・・・　2009.7.30.

袴腰山の造成地を抜けると北の丘陵地の住宅地と袴腰山の間はのどかな田園地帯　反対の北側丘陵地は住宅地
正面に　袴腰山　その手前に　南郷変電所　右手に岩間山　　この周辺が南郷3丁目

造成地の中をまっすぐ北に降りると北側の丘陵地との間には田園地帯が広がり、ちいさな小川が東西に流れる谷間にぶち当たる。
崖の上が今日車を載せてもらった地点周辺の石山南郷2丁目の住宅地。
右手に川沿いを行けば瀬田川に出る。また、左手に道を取り田園地帯の中を変電所横で南へカーブしながら緩やかな坂を上れば袴腰山と岩間山の鞍部桜峠である。

南郷2丁目の住宅地の崖下を東西に流れる小川

道脇の電信柱に南郷3丁目の標識が見える。
この変電所周辺の丘陵地の谷間に資料に地名記載のある南郷の古代の製鉄遺跡が埋もれているのかもしれない。
田園地帯の奥　袴腰山の山裾を昔調査していたという人もいるが、今は　もう土地の人に聞いてもまったく判らない。

南郷製鉄遺跡（南郷3丁目）周辺の田園地帯
袴腰山の北側の山裾の田園地帯　資料にある南郷製鉄遺跡（南郷3丁目）がこの田園地帯の中にあるようだ

2. 袴腰山と岩間山の鞍部桜峠を越えて南へ

瀬田川が狭い渓谷を90度曲がって流れ下る鹿跳橋（大津市石田東）・立木観音登り口石段下へ

変電所の横を南へ　桜峠への道　　この桜峠にも古代の製鉄遺跡があるという

南郷中学の横から変電所の脇を通って、南へ桜峠への道をたどる。

道脇に「いわまの名水」をボトリングしている所がある。 ちょうど桜峠の所に名水が湧き出すところがあり、その水をボトリングしているという。 六甲の水と同じ花崗岩質の中を通り抜けた名水。峠にもその湧き出し口があると聞く。

変電所を過ぎると人家はなくなり、岩間山と袴腰山の鞍部へとまっすぐ登ってゆく。 時折　車が走り抜けてゆくが人影はまったくなし。

道脇の狭い平地にあった田圃がなくなると両側は深いブッシュに覆われ、右手上を京滋バイパスが併走する。

人家がとだえた山中の一本道が峠へ続く

まもなくこの道の右手を京滋倍バスが併走する

袴腰山と岩間山の鞍部　桜峠への道　　2009.7.30.

滋賀埋蔵文化財センターの遺跡所在地の地図によると峠に行くまでのこの道の両側が桜町製鉄遺跡の所津在地になっているが今は雑草に覆われ、まったく良くわからない。

桜峠製鉄遺跡がある桜峠周辺袴腰山裾のブッシュ　今はまったくわからない

峠のすぐ手前で道は反対側へ

峠のすぐ手前で広い道は高速道路をくぐって反対側に出るが、まっすぐそのまま峠へ狭くなって勾配がきつくなった道が続いている。
振り返るとすぐ横を通る高速道路の反対側に坑道から地下深層水が湧き出す長石鉱山が見える。
この水が「岩深水」としてボトリングして市販されているという。

岩間地下深層水が採取される長石鉱山が見える

すぐ向こうは峠　宇治の山並みが見えている

桜峠までひと登り。 峠のすぐ手前のところで、車を止めて袴腰山の山裾で水を汲んでいる人がいる。 長石鉱山の地下坑道から湧き出す地下深層水ではないが、ここの水もうまいので、汲みに来るのだという。
この湧水から 50m ほどのぼったところが峠である。 うまい水もあるし、峠に座り込んで昼飯にする。

桜峠から見る峠の南側　　正面に東の宇治・京都方面へ抜けてゆく京滋バイパスの陸橋が見える　　2009.7.30.

桜峠の湧水

南郷側から見る桜峠　　2009.7.30.

峠から少し降った所で高速道路の下をくぐって元の広い道路に合流して、さらに南へ　袴腰山の高台の山腹を走る高速道路と少しはなれて、谷筋の崖に沿って下ってゆく。前方の京滋バイパスの高い陸橋を潜り抜けるとこの山の東側で90度方向を西へかえて流れ降ってきた瀬田川の北岸　宇治と南郷・石山を結ぶ広い道路である。瀬田川が崖下はるか下を流れ降る。

峠を南で高速道路を潜って元の広い道路に合流　　2009.7.30.

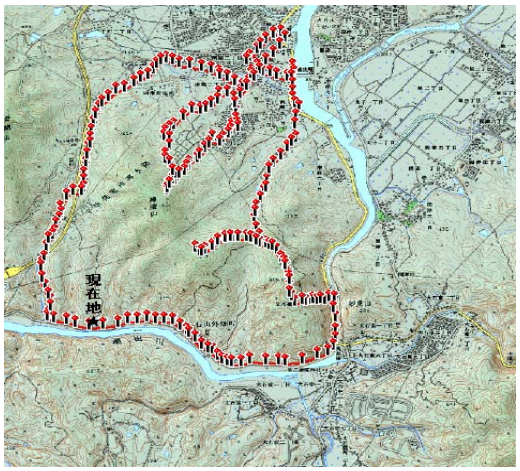
京滋バイパスの陸橋を潜る　　前方に瀬田川の対岸の山が見え出すとまもなく瀬田川の対岸

瀬田川北岸を宇治から南郷・石山をつなぐ道路とのＴ字路

宇治へと流れ下る瀬田川　　西に南大津大橋が見える

北から南へ伸びる袴腰山・立木山の西側をぐるりと巻いて南側に出たところで、道はここから瀬田川に沿ってこの山塊の南側から東側へぐるりと巻いて今度は北へ山の東側を北に向かう。　この道路の崖下を流れる瀬田川は歩いてきた道とは反対側の袴腰山・立木山の東側を流れ降ってきて、立木山の山裾を90度東に巻いて西に流れ下ってきた。
西の宇治側に南大津大橋が見え、対岸の山並みとの間の狭い峡谷の間を瀬田川が宇治川となって流れ下る。
峠から約30分ほど　このあたりも車が通過して行くのみで人家がなく、このあたりが深い谷筋にあること想像される。

この下流側に天ケ瀬の大きなダムがあるため、川の水量が多く、水深が大きいため、V 字の谷間には見えないが、深い峡谷。
上流南郷の巾の広い瀬田川がすぐ南で峡谷を抜けて行くとははじめよく知りませんでした。 弘法大師の立木観音伝説でこの峡谷を鹿跳渓谷というそうである。ましてや このすぐ上流側 立木山の麓で90度方向を変えて流れ降ってくるなど思いもかけない場所。
興味津々で流れ降ってくる瀬田川を眺めながら東へ歩く。



北から南へ流れ下ってきた瀬田川が90度西へ方向を変える立木山の山裾の周辺図

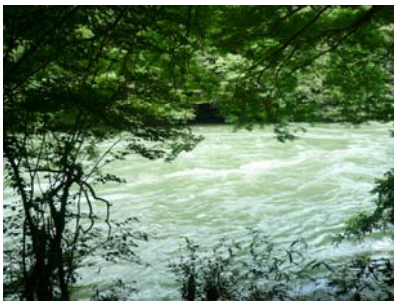
15分ほど川に沿って東にたどると峡谷の巾一杯にとうとうとと流れ下ってくる瀬田川。そして、前方に立木山南麓唯一の集落外畑が見えてくる。 この集落をぬけると間もなく、北から流れてきた瀬田川が山にぶつかり、90度方向を変えるあたりで、コーナー一部の対岸の山が見えてくる。 小高い丘陵地で丘陵地の対岸には点々と家並みがあり、道路がこの丘陵地を南に走りぬけている。
もっと急峻な山にぶつかって方向を変えているのかと想像していましたが、なだらかな丘陵地が壁になっている。
水深が深いので、小高い丘陵のようにみえるのですが、もっと深い谷なのかもしれません。
川の流れは水深が深い割にはスピードが速くとうとうと流れ下っている。 下流の淀川を想像するとよどんでいるわけにいかないのが、良くわかる。 早くコーナー一周辺の対岸を見たいと道を急ぎ、立木山の山裾のコーナーを曲がる。

両側を山に挟まれた峡谷を流れ下る瀬田川と前方に立木山南麓唯一の集落外畑が見えてくる　　2009.7.30.

瀬田川が90度曲がってくるコーナーの対岸の山　　2009.7.30.

瀬田川の右岸沿いの道の南端をくるりと北に回ると以外にも対岸は山に取り囲まれた河岸段丘の上の市街地　大津市石田。
その下を　波しぶきを挙げながら瀬田川の急流がカーブへ突入して行く。
瀬田川の上流側波しぶきの濁流の吹き出し口は鹿跳橋で　この橋から上流側は 10m そこそこの川巾に狭められた峡谷からあたかも水が噴出すように流れ下って、どんと段丘の壁にぶつかって西へ曲がってゆく。 折れ曲がらずにまっすぐ流れた方が空があいているのに・・・・・・と。 ちょうどこの鹿跳橋が90度折れ曲がる瀬田川を本流に南側・東側からもなだらかな谷筋を下ってきた川が流れ込むすり鉢の底。 北から峡谷の右岸を南郷から下ってきた道はこの鹿跳橋で分岐して、橋を渡って左岸に広がる段丘を抜けてまっすぐ南や東へ丘陵地を越えてゆく。 こちらの方が断然明るい。 太古の地割れ状の深み　それがこの鹿跳橋周辺の地形のようだ。川幅の広い南郷洗堰を流れ出た大量の水がこんな巾の狭い峡谷を流れくだり90度折れ曲がっているとは思いもよらなかった光景。 ビックリで橋の上を行ったり来たり。

鹿跳橋を流れ下る瀬田川　　対岸は大津市石田東の街　瀬田川は右手端で西へ曲がってゆく



鹿跳渓谷　　鹿跳橋周辺　上流側　本当に対岸に手が届く巾に狭められた瀬田川が流れ下る

この鹿跳橋から北側へ立木山を回りこんで数百 m ほど行った狭い峡谷の右岸が立木山の尾根の上にある立木観音への登り口。瀬田川の狭い峡谷の右岸に垂直に近い壁に石段が付けられている。国土地理院の地図にも階段の印がある垂直にとも思える階段が尾根筋まで続く。
この一帯が花崗岩帯の岩山であることをこの石段と狭い峡谷を流れ下る瀬田川があらためて思い出させてくれる。
　桜峠から約1時間ぐるりと袴腰山・立木山の山塊の山裾を回って、ここから立木山・袴腰山の尾根を登って、山の上からの南郷眺望に再トライする。

立木観音の登り口の石段

瀬田川の右岸から立木山の尾根筋にある本堂まで　標高差 200m 弱を何度も折れ曲がりながら約 700 段の石段で　まっすぐに登る立木観音参道の石段。国土地理院の地図にもその石段が記載されている。

4. 立木観音から縦走路を袴腰山の縦走路を袴腰山見晴台へ
帰りは立木山と袴腰山の鞍部の峠から谷筋を下って　芋谷南製鉄遺跡周辺から南郷へ

約 700 段の石段を登りつめた尾根筋に立木観音の本堂がある　2009.7.30.

立木観音本堂　2009.7.30.

瀬田川右岸の登り口から約 700 段の石段を登り始めて約 20 分やっと立木観音の本堂に到達。立木山の尾根筋に建っているが、緑の木々につつまれ、視界は開けない。

立木観音の正式名称は安養寺といい、平安時代の弘仁 6（815）年、諸国を修行中の弘法大師が、瀬田川のほとりに立ち寄った際、対岸の立木山に光を放つ霊木があるのが目にとまった。しかし、急な流れの瀬田川を渡りあぐね、しばらくたたずんでいたところ、突然白鹿が現れ、その背に弘法大師を乗せ、霊木の前まで導き、そこで観世音菩薩に変化し、虚空の中に消え去った。

この奇跡に感じ入った弘法大師が、霊木に観世音菩薩を刻んだのが、立木観音の始まりだという。

弘法大師が観世音菩薩を刻んだのが、42 歳の厄年であったひとから古くから厄除け観音として親しまれている。

また、この伝説から立木山の前の渓谷を鹿跳渓谷というのだそうだ。

インターネットにはこの本堂の裏へ回った所から、立木山・袴腰山へのよく整備された縦走路がついているという。視界の開けるのは立木山から、南の石山外畑と南郷を結ぶ山越えの峠である袴腰山との鞍部を越えて袴腰山の尾根筋を登ったピーク「見晴台」のみとあったので、この見晴台まで行く。 また　遺跡地図によると峠道を南郷へ下った谷筋の立木観音北参道との合流点周辺が「芋谷南製鉄遺跡」の位置なので、この峠道を南郷へ下る。 午前中　袴腰耶麻の北山腹からは良く見えなかった洗堰と瀬田川の流れが見えたら本当に万々歳なのですが・・・・・・。

本堂の裏手の石畳の道の際に木の柵があり、その柵をまたいで奥につづく道を行けばそれが縦走路だという。 インターネットにあるとおりしっかりした縦走路が尾根伝いに整備されていました。

立木観音本堂の裏から立木山・袴腰山へ続くしっかりした縦走路　2009.7.30.

南郷/外畑の峠道・立木山と袴腰山の鞍部への道標

雑木林の中の尾根筋道　30 分足らずで　立木山を越えると南郷/外畑の峠道・立木山と袴腰山の鞍部への道標があり、この道標に従って尾根道をはずれ鞍部にくだると十字に標識を取り付けた道標が下りきったところに見える。この縦走路と外畑と南郷を結ぶ峠道とのクロスである。

この峠を左へ下れば、先ほど麓を歩いてきた瀬田川北岸の外畑集落　右へ下れば、南郷へ通じている。
おそらく古い峠道なのだろう。この南郷への道を下っていったところに奈良時代の製鉄跡「芋谷南製鉄遺跡」がある。

南郷/外畑の峠道とのクロス　立木山と袴腰山との鞍部

鞍部から袴腰山への登りはザラバの急登り。 ロープが張られたザラバを登りきると初めて南側に視界が開ける。
この山塊が湖南アルプスと同様に尾根筋がもろい花崗岩質であることを見せてくれた唯一の場所だった。
幾つもの送電線が山を渡っていくのが見える。おそらく、この送電線は瀬田川の下流宇治川の喜撰山発電所周辺の送電線網のようだ。 この山中を瀬田川が宇治川となって蛇行しながら流れ下る。

立木山と袴腰山の鞍部から西へ袴腰山の尾根を登ったざれ場から　南西側　宇治田原・宇治方面の展望　　2009.7.30.

しばらく展望を楽しんだ後　縦走路に戻り、樹林帯の中に入って袴腰山の尾根筋を少し登ると樹林帯の中北側の展望が開けた場所に出た。 ここが地図に袴腰山の 341m 南東ピークと記載されている「見晴台」で、ベンチが置かれ、ゆったりと南郷から琵琶湖側の展望が楽しめるようになっている。 縦走路はここからまた樹林帯の中に入って袴腰山のピークへと続いているが、「芋谷南製鉄遺跡」のある南郷芋谷方面へ下りたいので、北の展望をしっかり楽しんだ後、峠へ引き返し、南郷へ下る。

袴腰山　見晴台からの南郷・琵琶湖方面の展望　　2009.7.30.

袴腰山の北側に広がる南郷2丁目の住宅地

写真左下に午前中に下った造成地が見える

南郷洗堰を流れ下る瀬田川

写真右したが洗堰

袴腰山　見晴台から眺める南郷・琵琶湖方面の展望　　2009.7.30.

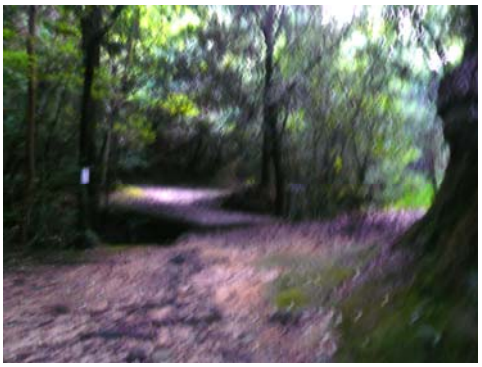
ぜひとも眺めたかった山の上からの南郷洗堰・そして琵琶湖から南郷を流れ下る瀬田川の姿がしっかり見られました。天気がよく琵琶湖の背後の比良までしっかり見えました。

しっかり展望を楽しんで峠へ引き返す。

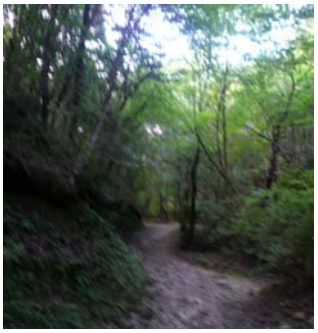
峠まで引き返して南郷への道をたどる。峠からは谷筋へしっかりした道がついていたのですが、山腹を降りて谷筋の底に下りるにつれ、道が怪しくなる。数日前の長雨の影響があるのか　この谷筋は水でずくずくで少し厄介。
また、下まで、ヤブコギかなあと思いましたが、川を渡る地点ややややこしい場所で　次の地点がわかるよう本当に丁寧にテープが張られていて助かりました。

峠から南郷へ下る谷筋道　水でずくずく　また　道がはっきりしない谷筋である　　2009.7.30.

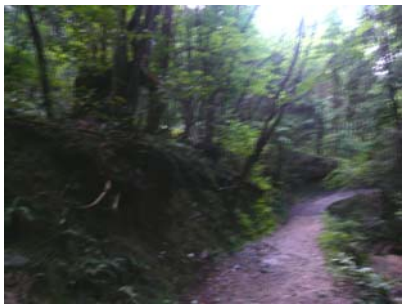
道の勾配がゆるくなって歩きやすくなった頃　右から階段に整備された立木観音北参道の広い道がみえだし、少し広くなった場所合流する。また、この合流点では袴腰山への道標があり、袴腰山からの道も左から合流し、ここから南郷へ広い道で下ってゆく。どうも　この広場周辺が場所が芋谷南製鉄遺跡周辺のようであるが、よくわからない。
川筋に砂鉄がないか?　鉄滓が転がっていないか調べてみましたが、その痕跡見つけられませんでした。



立木観音北参道との合流点　少し広場になっていて　袴腰や間からのみちもここで合流
まだ雑木林におおわれた谷筋の中であるが、遺跡図からするとどうも　この周辺が芋谷南製鉄遺跡の位置周辺のようだ



川筋に砂鉄がないか調べて見ましたが、痕跡はなかった



峠から南郷の下り道で　2009.7.31.

ぶらぶら歩いて南湖の田園地帯に出たのは夕刻まじか

ここでも畑にいる人たちに遺跡の話を聞くのですが、やっぱり　もう知らないと。

もう南郷製鉄遺跡群はもうほとんど語られなくなっているようです。また、午前中に入った袴腰山の北側の道もそうですが、年々土地の人たちが、里山に入らなくなって、ハイキングコースとしい整備されている道以外は本当に荒れているとつくづく感じました。

でもこんなに身近にちょっと登れば素晴らしい風景がみられるのに・・・・・と。

振り返るとどっしりとした山体の袴腰山が畑の向こうにどっしりと座っていました。

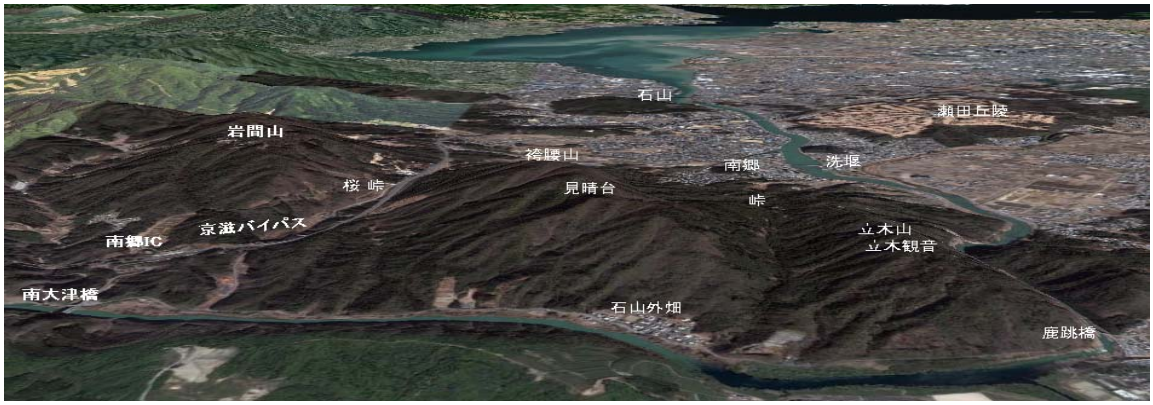
小さな山ですが、気持ちのいいミニハイクでした。

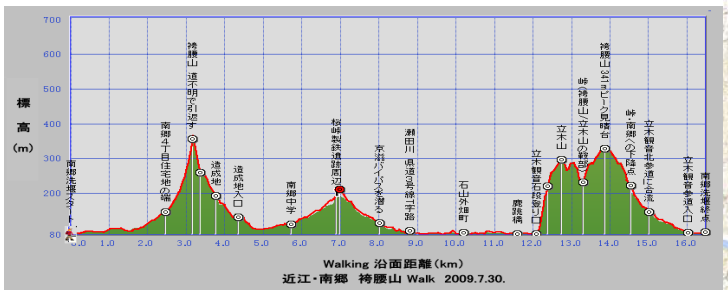
田園地帯を下って南郷5丁目の住宅地を抜けると洗堰のすぐ南の瀬田川の左岸道路。 道脇には立木観音まで20丁の道標が建っていました.

南郷5丁目　立木山北参道から眺める袴腰山

洗堰の左岸道路脇に建つ立木観音北参道の道標

5. summary





琵琶湖から流れ出す淀川の源流というべき近江湖南か古代製鉄を育んだ製鉄地帯であることの興味と淀川流域はよく知っているつもりでしたが、南郷洗堰から宇治へ流れ下る一帯が自分にとって空白であることに気がついて　今年の春から何度か訪ねこの7月湖南アルプスから欄郷洗堰の Walk で完結したと思ってのですが、なんとも消化不良気味。

1. 洗堰の左岸にどっしり座る袴腰山　そして　その袴腰山の山麓に点在する古代の南郷製鉄遺跡群
   もう痕跡は見つからないでしょうが、実際に歩いていないこと
2. 琵琶湖から南郷洗堰を通って宇治川の峡谷へ流れ下る瀬田川全景の景色が見れていない
3. 南郷洗堰を出た広い流れが南郷のすぐ南で川幅10m ほどの狭い峡谷を激流となって
   90度曲がって宇治へ流れていくこのポイントを見ていない
4. これははじめ頭になかったのですが、国土地理院の地図に瀬田川の左岸から立木山の尾根筋にある立木観音本堂まで
   登る石段参道が記載されている。 これも　花崗岩帯の湖南の痕跡。やっぱり見なくては・・・・

もう一度　南郷を歩いて　これらを達成しようと今回南郷 Walk に再チャレンジ。

南郷の真ん中にどっしり座る袴腰山のてっぺんに登って、そしてまた、山麓を一周すれば目的が達成されると7月30日1日南郷を歩きました。 一日歩き回って目的達成。自己満足かもしれませんが、湖南南郷　気持ちのいい1日ハイキング。

古代　日本海側から琵琶湖経由の大和への文化・人・技術の交流路　湖南がやっと頭の中に入りました。

1. **袴腰山の尾根筋　見晴台からみた南郷の全景　　琵琶湖から洗堰を流れ下る瀬田川**

袴腰山　見晴台からの南郷・琵琶湖方面の展望　　2009.7.30.

写真右をななめに瀬田川が流れ　端部中央が南郷洗堰

2. 南郷にどっしり座る袴腰山とそのまわりに点在する古代の製鉄遺跡群　南郷製鉄遺跡群周辺

洗堰から見る南郷の象徴　袴腰山と南郷製鉄遺跡群の遺跡マップ

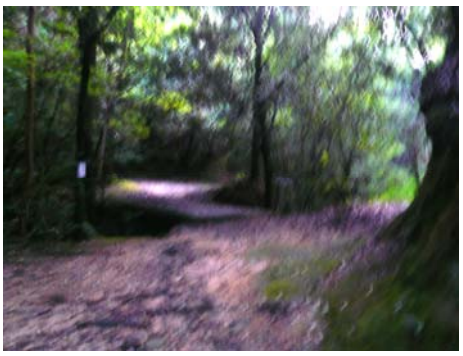
近江 湖南 南郷の 古代の製鉄関連遺跡群　　滋賀県埋蔵文化財センター 遺跡マップほかより整理

.	製鉄遺跡群	遺跡名称	遺跡所在地	市区町村名	遺跡種類・遺構	遺跡時代	備考
n1	南郷製鉄遺跡群	南郷遺跡	南郷3丁目・石山南郷町	大津市	製鉄跡	.	鉄滓
n2	南郷製鉄遺跡群	平津池ノ下遺跡	平津1丁目・千町1丁目	大津市	祭祀跡・製鉄跡・墓跡	弥生・古墳・奈良	鉄滓・石鏃
n3	南郷製鉄遺跡群	山口遺跡	南郷5・6丁目	大津市	釜跡	奈良・平安	須恵器・鉄滓
n4	南郷製鉄遺跡群	南郷桜峠	南郷1丁目	大津市	製鉄跡	奈良	.
n5	南郷製鉄遺跡群	芋谷南	石山南郷町・南郷4	大津市	製鉄跡	奈良	.

◆　桜峠製鉄遺跡周辺　　すぐ横を京滋バイパスが走る袴腰やまと岩間山の鞍部桜峠　　周辺袴腰山裾のブッシュ

袴腰山の北山麓　　南郷3・4 丁目奥の造成地　　南郷3丁目　　背後左　袴腰山

◆　南郷製鉄遺跡跡周辺　　袴腰山の北側の斜面山裾

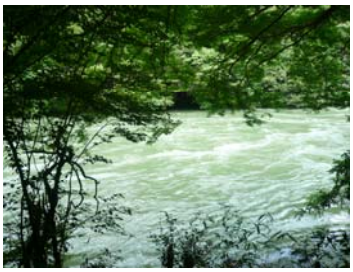


◆　芋谷南製鉄遺跡周辺　　南郷5丁目瀬田川右岸からの立木観音北参道　袴腰山・峠越えの外畑への分岐部周辺の谷筋

3. 瀬田川が狭い峡谷を激流となって90度曲がり、流れ下る立木山の山裾　鹿跳橋周辺

瀬田川が90度曲がってくるコーナーの対岸の山　　2009.7.30.

鹿跳橋を流れ下る瀬田川　　対岸は大津市石田東の街　瀬田川は右手端で西へ曲がってゆく



鹿跳橋周辺　上流側　本当に対岸に手が届く巾に狭められた瀬田川が流れ下る

4. 国土地理院の地図に記載されている約700段の立木山参道の石段

約 700 段の石段を登りつめた尾根筋に立木観音の本堂がある　　2009.7.30.

【 近江 湖南の製鉄遺跡群 】 滋賀県埋蔵文化財センター資料より

近江 琵琶湖湖南 古代の製鉄関連遺跡群　滋賀県埋蔵文化財センター 遺跡マップほかより整理

.	製鉄遺跡群	遺跡名称	遺跡所在地	市区町村名	遺跡種類・遺構	遺跡時代	備考
.	.	近江国国庁跡	大江町	大津市	官衙跡・散布地 製鉄等生産工房管理	奈良・平安	瓦積基壇・瓦
a	瀬田丘陵製鉄遺跡群	源内峠	瀬田南大萱町	大津市	製鉄跡	白鳳	鉄滓
s1	瀬田丘陵製鉄遺跡群	野路小野山	草津市野路町	草津市	製鉄跡	奈良	製鉄炉・鍛冶炉・炭窯 ・掘立柱建物・柵列・土師器 ・須恵器・鉄鉱石・井戸
s2	瀬田丘陵製鉄遺跡群	木瓜原	草津市野路町	草津市	製鉄跡	白鳳～奈良	鉄滓・灰原 ・須恵器(7～8世紀)
s3	瀬田丘陵製鉄遺跡群	青江南遺跡	神領3・4丁目	大津市	鉄滓散布地	.	鉄滓
s4	瀬田丘陵製鉄遺跡群	月輪南流遺跡	月輪3丁目・一里山5丁目	大津市	須恵器・鉄滓散布地	奈良・平安	須恵器・鉄滓
s5	瀬田丘陵製鉄遺跡群	笠山遺跡	南笠町	草津市	窯跡・鉄滓散布地	古墳～奈良	鉄滓・須恵器・土師器 ・須恵器窯
s6	瀬田丘陵製鉄遺跡群	獅々舞谷遺跡	南笠町	草津市	須恵器・鉄滓散布地	.	須恵器・鉄滓
s7	瀬田丘陵製鉄遺跡群	三池遺跡	南笠町	草津市	.	.	.
s8	瀬田丘陵製鉄遺跡群	湧清谷遺跡	草津市野路町	草津市	.	.	.
s8	瀬田丘陵製鉄遺跡群	金鉄遺跡	草津市野路町	草津市	.	.	.
s9	瀬田丘陵製鉄遺跡群	岡田追分遺跡	草津市追分町	草津市	.	.	.
s10	瀬田丘陵製鉄遺跡群	観音堂遺跡	野路町	草津市	複合生産工房	白鳳・奈良	須恵器窯・炭窯・須恵器 ・土師器・打製石鏃
.	.	.	.	.	.	.	.
n1	南郷製鉄遺跡群	南郷遺跡	南郷3丁目・石山南郷町	大津市	製鉄跡	.	鉄滓
n2	南郷製鉄遺跡群	平津池ノ下遺跡	平津1丁目・千町1丁目	大津市	祭祀跡・製鉄跡・墓跡	弥生・古墳・奈良	鉄滓・石鏃
n3	南郷製鉄遺跡群	山口遺跡	南郷5・6丁目	大津市	釜跡	奈良・平安	須恵器・鉄滓
n4	南郷製鉄遺跡群	南郷桜峠	南郷1丁目	大津市	製鉄跡	奈良	.
n5	南郷製鉄遺跡群	芋谷南	石山南郷町・南郷4	大津市	製鉄跡	奈良	.
.	.	.	.	.	.	.	.
t1	田上山製鉄遺跡群	関ノ津東遺跡	関津3丁目	大津市	製鉄跡	古代？	鉄滓
t2	田上山製鉄遺跡群	小山池遺跡	関津3丁目	大津市	鉄滓散布地	古代？	鉄滓
t3	田上山製鉄遺跡群	大塚遺跡	上田上中野町	大津市	製鉄跡	古代？	鉄滓
t4	田上山製鉄遺跡群	森町遺跡	森町3丁目	大津市	鉄滓散布地	古代？	鉄滓
.	.	.	.	.	.	.	.

【 参考資料 】

1 南郷製鉄遺跡 .滋賀県埋蔵文化財センター 滋賀県文化財学習シート 遺跡偏

Http://www.pref.shiga.jp/edu/content/10_cultural_assets/gakushu2/data/2005/index.html

2. 参考 和鉄の道 file

1. 古代近江湖南の製鉄遺跡群を湖南アルプスより眺める

ナイフリッジの尾根が続く湖南アルプス（太神山・堂山） & 南郷洗堰 Walk 2009.7.12.

http://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/9iron09.pdf

2.「高溶接性・強度・靭性を兼ね備えた高級高強度厚鋼板の実用化の先駆」

関西最初の大型揚水発電所 「喜撰山発電所」を訪ねて 宇治川 Walk 2009.5.10.

http://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/9iron06.pdf

3. 大和政権を支えた近江国の鉄 瀬田丘陵の製鉄地帯

http://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/jstlbb03.pdf

4. 瀬田丘陵 の源内峠製鉄遺跡・野路小野山遺跡を訪ねて

大型量産製鉄炉を確立し、古代官営大製鉄コンビナートに発展させた近江の製鉄技術

http://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/7iron03.pdf

5. 愛媛大・今治 市共同シンポジュウム 「鉄 と古代国家 今治に刻まれた鉄の歴史」

四国で初の古代製鉄炉 高橋佐夜ノ谷 2 製鉄遺跡 発掘報告会

http://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/6iron15.pdf